富雄丸山古墳の史跡整備と出土品公開施設建設のための財政支援について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

奈良市における取組

（現状・課題）

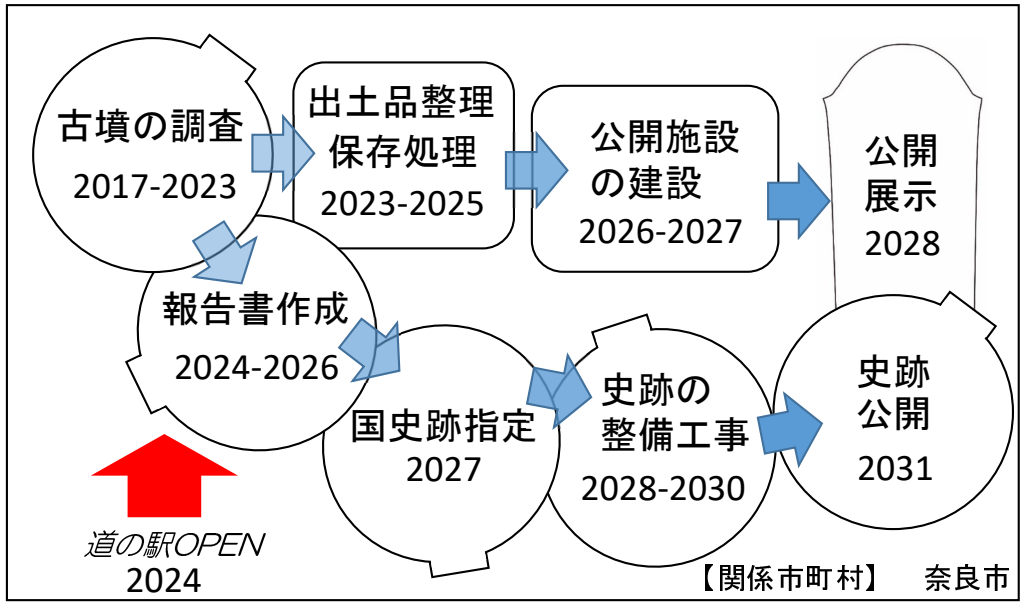
奈良市西部地域は大阪と奈良を結ぶ暗峠奈良街道が通り、富雄川に沿って郡山城や斑鳩地域へとつながる古代以来の交通の要衝地です。周辺には追分本陣村井家住宅・霊山寺・登弥神社などがあり、大和の英雄ナガスネヒコ伝承の舞台としても注目されています。

奈良市では、この地域の周辺観光を促進するための新たな拠点づくりを目指し、奈良県が2024年に運営開始する予定の道の駅と連携して、地域活性化に取り組んでいます。

富雄丸山古墳はその中核的な文化財の一つで、西部地域のどこからでも視認できる地域のランドマークとして大きく活用できる魅力を持っています。そこで、平成29（2017）年から国史跡指定と古墳活用を目的とした調査を継続してきました。その結果、直径109mの規模で国内最大の円墳となることが判明しました。令和４年度には、造り出しの粘土槨から東アジア最大の鉄剣（蛇行剣）と他に類例のない盾形銅鏡が出土するなど大きな成果が得られ、令和５年度には、従来の調査では未確認だった粘土槨の具体的な構築方法を解明するとともに、全長約5.6mの木棺内部の調査を進め、想定されてきた古墳時代の長大な木棺内部の典型的な空間利用を実物の棺で確認することができました。

現地見学会には、令和４年度、令和５年度ともに、２日間でのべ4,500名以上の見学者が訪れました。

富雄丸山古墳は全国的に注目されており、今も来訪者が絶えません。



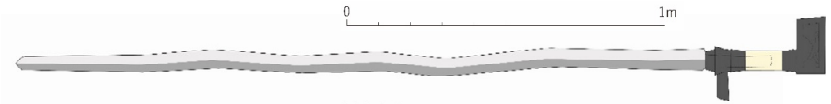
国にお願いすること

富雄丸山古墳と出土品の公開活用に対する取組への財政的支援の創設を令和6年度中に求める。

①国宝級とも報道された鉄剣と盾形銅鏡の恒久的な保存処理と公開活用施設建設のための財政的支援

②富雄丸山古墳の史跡指定に向けた取組への行政的支援

③史跡指定後の整備工事費用など史跡公開のための財政的支援



【担当部署】　奈良市教育委員会文化財課